

**MITSUBISHI**

三菱Web地理情報システム構築パッケージ



WebTcl 起動サンプルインストール手順書

PC Tomcat5.5.20 編

追加ドキュメント

## はじめに

本書では、PreServ WebTcl の動作確認プログラムを AP サーバ上に配置する手順に関して記述します。

手順に関しては各 AP サーバ毎にことなるため、AP サーバの検証を行うごとに、各 AP サーバ用のドキュメントを追加します。

---

## 目次

1	概要.....	3
1.1	準備するもの.....	3
1.2	動作確認済みAPサーバ.....	3
2	Apache Tomcat.....	4
2.1	Apache Tomcat の事前環境構築.....	4
2.2	Tomcat 設定ファイルの編集.....	5
2.3	Tomcat Webアプリケーションマネージャ画面のオープン.....	6
2.4	新規アプリケーションのインストール.....	7
2.5	PreSerV WebTcl Java APIの配置(任意手順).....	8
2.6	起動HTMLとマクロの配置.....	9
2.7	起動HTMLの修正とPreSerV WebTcl基本モジュールのコピー.....	9
2.8	アプリケーションの実行.....	10
2.9	動作確認アプリケーションの実行.....	10

## 1 概要

## 1.1 準備するもの

WebTcl の動作確認用サンプルに必要な以下の環境を準備してください。

- ① AP サーバ環境(含む Web サーバ)

事前に AP サーバをインストールし、環境設定を行ってください。

管理コンソールのユーザ ID は事前に確認してください。

- ② クライアント PC

AP サーバとネットワークで接続可能なクライアント PC を準備してください。

注) AP サーバと同一の PC をクライアント PC としても動作可能です。

- ### ③ WebTcl の動作確認用サンプル

「PreSerV WebTcl Basic Media」の CD から「起動確認サンプル」をクリックし、PC 上にファイルを解凍してください。



圖 1-1 「PreSerV WebTcl Basic Media」CD 自動再生畫面

## 1.2 動作確認済み AP サーバ

本文書で動作確認を行ったAPサーバを表 1-1 に示します。この動作確認は製品の全動作仕様の確認ではなく、インストール時の動作確認アプリケーションの検証を行ったリストです。

表 1-1 動作確認済み AP サーバー一覧

No.	AP サーバ名	配布元	バージョン
1	Apache Tomcat	Apache Software Faoundation	5.5.20

注) Tomcat のバージョンが 5.5.26 では、デフォルトで WAR ファイルの配備機能が動作しないことを確認しています。本文章の手順の適用範囲は 5.5.20 とします。

## 2 Apache Tomcat

本章の記載は Windows 系 OS 向けの Apache Software Foundation から提供される Tomcat 5.5.20 の設定例です。プログラムの入手や基本的な設定などは、Apache Software Foundation のサイトを参照してください。

### 2.1 Apache Tomcat の事前環境構築

以下は Tomcat がデフォルトの設定で動作する環境が構築されていることを前提に記述しています。

Tomcat のインストールコンポーネントは表 2-1 のものを使用します。

表 2-1 Tomcat で使用するコンポーネント

No.	Binary Distributions の分類名	説明
1	Core	Tomcat のコアとなるコンポーネントです。 Windows Service Installer を使用すると、 インストーラでセットアップ可能です。
2	Deployer	Web アプリケーションのディプロイ (配備) に 関するコンポーネントです。
3	Administration Web Application	Tomcat の管理画面に関するコンポーネントで す。
4	JDK 1.4 Compatability Package	Tomcat 5.5.20 系列は標準で Java5 の JavaVM で動作するため、JDK1.4 の JavaVM で動作さ せる場合は本パッチの適用が必須。 JDK1.5 の JavaVM の場合は不要。

## 2.2 Tomcat 設定ファイルの編集

Tomcat の設定ファイルである web.xml ファイルの編集を行います。

web.xml ファイルの格納先は Tomcat のインストールディレクトリの conf 以下です。

例) *C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.5\conf*

注) イタリック体の部分は Tomcat のインストール先がデフォルトの場合のディレクトリです。

以下の手順で web.xml ファイルの編集を行います。

- (1) web.xml ファイルをノートパッドなどのエディタで開きます。
- (2) 100 行目付近にある、” invoker” の” servlet” タグのコメントタグを外します。  
(リスト 2-1 を参照)

リスト 2-1 手順(2)

```
<!--
  <servlet>
    <servlet-name>invoker</servlet-name>
    <servlet-class>
      org.apache.catalina.servlets.InvokerServlet
    </servlet-class>
    <init-param>
      <param-name>debug</param-name>
      <param-value>0</param-value>
    </init-param>
    <load-on-startup>2</load-on-startup>
  </servlet>
-->
```

- (3) 同様に 350 行目付近にある” invoker” の” servlet-mapping” タグのコメントタグを外します。(リスト 2-2 を参照)

リスト 2-2 手順(3)

```
<!--
  <servlet-mapping>
    <servlet-name>invoker</servlet-name>
    <url-pattern>/servlet/*</url-pattern>
  </servlet-mapping>
-->
```

- (4) 保存して web.xml ファイルを閉じます。

## 2.3 Tomcat Web アプリケーションマネージャ画面のオープン



対象とする AP サーバの Tomcat Web アプリケーションマネージャ画面をログインして、表示します。



以下の URL で Tomcat Web アプリケーションマネージャ画面をオープンしてください。  
ローカルでアクセスした場合は以下のようになります。

例) `http://localhost:8080/manager/html`

注) イタリック体の部分は、インストール時のホスト名、ポート番号の設定によって異なります。

Tomcat Webアプリケーションマネージャ画面では、インストール時に設定した管理者のログイン名とパスワードを入力してください。(図 2-1 参照)

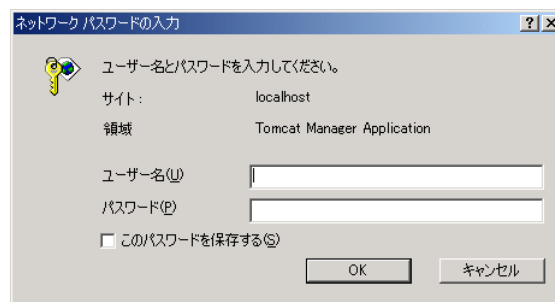


図 2-1 Tomcat ログイン画面例

## 2.4 新規アプリケーションのインストール



PsvWTclSample.war を新規アプリケーションとしてインストールし、コンテキスト名を” PsvWTclSample” としてください。



Tomcat Webアプリケーションマネージャ画面の「WARファイルの配備」(図 2-2 参照)で、1.1 節で解凍した起動サンプル中のPsvWTclSample.warファイルのパス名を入力します。

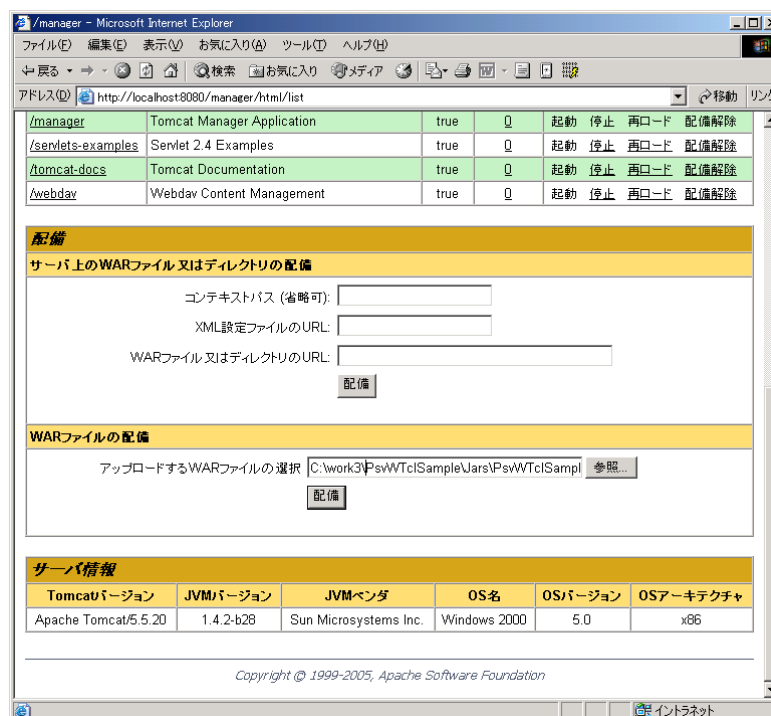


図 2-2 WAR ファイルの配備画面

入力は直接パス名をテキストボックスに入力するか、「参照」ボタンをクリックして、” PsvWTclSample.war” のパス名を指定してください。  
フルパス名がテキストボックスに表示された後「配備」をクリックすると、” /PsvWTclSample” というコンテキスト名が作成されます。



## 2.5 PreSerV WebTcl Java API の配置(任意手順)

初版の確認プログラムでは共有ライブラリは、本体の War に包含し簡易化しています。  
以下のケースでは、PsvWTclSample.war から PreSerV WebTcl Java API の jar を削除し、  
共用のライブラリとして配置してください。

- ① 複数の WebTcl アプリケーション間で、PreSerV WebTcl Java API の  
Jar (PsvWTclClient.jar) を参照する  
PreSerV WebTcl Java API の Jar を共用ライブラリとして設定し、アプリケーションから参照してください。
  - ② 包含する WebTcl Java API をバージョンアップする場合  
サンプルに包含する WebTcl Java API は初版のモジュールです。
- (1) 共用のライブラリ・ディレクトリへの配置



共用のレベルによりますが、Tomcat の共用のライブラリを配置するディレクトリの 1 つは以下です。

例) *C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.5\common\lib\*

注) イタリック体の部分は Tomcat のインストール先がデフォルトの場合のディレクトリです。

## 2.6 起動 HTML とマクロの配置



起動 HTML および WebTcl 基本モジュールインストール媒体などのファイルを Web サーバ上に配置します。



起動 HTML やマクロは Web サーバ上に配置するドキュメントとして、プログラムとは別に配置可能です。

今回は配置を簡略化するため、2.4 節の配備で展開されている、PsvWTclSample アプリケーションの直下に配置し、同一のコンテキスト名でアクセスします。

例) "C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.5\webapps\PsvWTclSample" ディレクトリに、起動サンプル中の PsvWTclSample ディレクトリの中身をコピーします。

## 2.7 起動 HTML の修正と PreSerV WebTcl 基本モジュールのコピー



サンプルの起動 HTML の修正を行い、起動 HTML 表示時に自動ダウンロードされる、PreSerV WebTcl 基本モジュールのコピーを行います。



起動 HTML は、ホスト名 "quinsac" のポート "8090" 上のコンテキスト名 "PsvWTclSample" に配置される設定となっています。起動 HTML (PsvWTclSample/KickWTcl.html) をノートパッドなどのエディタで表示し、環境に合わせてホスト名 "quinsac" 部分と、ポート "8090" 部分を全て書き換えてください。

注) ポートは Tomcat にアクセスする TCP/IP のポートです。インストール時のデフォルトは "8080" となっていますので、"8090" → "8080" に修正が必要です。

PreSerV WebTcl 基本モジュールは、「スタートメニュー」→「プログラム」→「PreSerV WebTcl Basic Media」→「配布メディアディレクトリを開く」を選択すると、格納されているディレクトリを表示します。今回は WebTclInst.exe を起動 HTML と同じディレクトリにコピーしてください。

## 2.8 アプリケーションの実行



起動 HTML の URL へアクセスしてください。



2.6 節でコピーした起動 HTML をクライアント PC から表示して、動作確認アプリケーションを実行してください。

例) `http://localhost:8080/PsvWTclSample/KickWTcl.html`

注) イタリック体の部分は、インストール時のホスト名、ポート番号の設定によって異なります。

ホスト名の指定は、ユーザ環境によっては IP アドレスを指定する必要がある場合があります。

## 2.9 動作確認アプリケーションの実行



動作確認アプリケーションを実行し、WebTcl クライアントと AP サーバ上の Java アプリケーションの通信が正常に行われることを確認します。



起動 HTML へアクセスすると、自動的に WebTcl のインストールが開始されます。

インストール媒体の信頼性に関して、“MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION” の電子署名の確認が表示されますので、「はい(Y)」をクリックすると、WebTclの基本モジュールのインストールが開始されます。(図 2-3 参照)

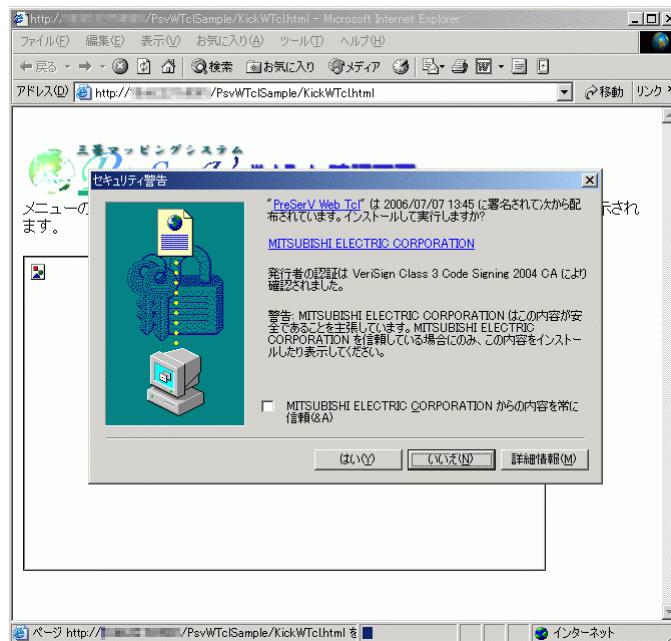


図 2-3 起動 HTML アクセス時のインストール確認

インストール終了後、初期起動マクロが実行されメニュー画面が表示されます。(図 2-4 参照)



図 2-4 メニュー画面

メニュー画面の操作パネル①～③のボタンを順番にクリックし、AP サーバとクライアント PC 間のリクエスト→レスポンスの動作を確認してください。

②のリクエスト→レスポンス確認では、簡単な図形を作成するトップウィンドウをIE 統合モードで表示します。(図 2-5 参照)

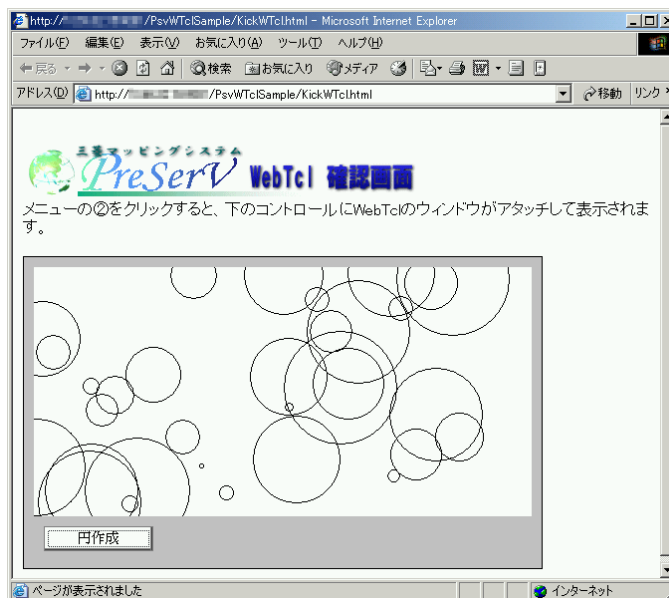


図 2-5 IE に統合された WebTcl トップウィンドウ

エラーのダイアログが表示されなければ、動作確認はOKです。(図 2-6 参照)  
エラーダイアログが表示された場合は、2.2 節と 2.7 節の設定と修正を確認してください。

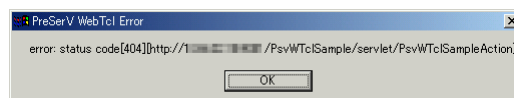


図 2-6 エラー表示ダイアログ

メニュー画面の「終了」をクリックすると、動作確認アプリケーションを終了します。  
このとき、IEの強制終了を防止するため終了確認のメッセージを表示します。(図 2-7  
を参照)  
この画面の「OK」ボタンを押下して終了することができます。

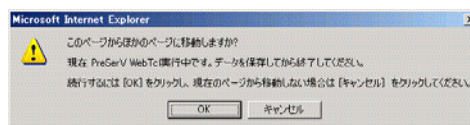


図 2-7 終了確認ダイアログ

注) 詳しくは「Preserv WebTcl FAQ 集」の「008 IE の終了禁止は可能か？」を参照してください。